

教材・支援機器活用実践事例(特別支援学校版)

	実践名(実践年度)	プライベートゾーンの学習(H29年度)
参加する授業について	教科名等 (該当する教科名等を選択。当てはまらない場合はその他を選択し、次の単元・題材名の欄に記入。)	☐ 国語 ☐ 社会 ☐ 算数/数学 ☐ 理科 ☐ 生活 ☐ 音楽 ☐ 図画工作/美術 ☐ 家庭/技術・家庭 ☐ 体育/保健体育 ☐ 道徳 ☐ 外国語/外国語活動 ☐ 総合的な学習の時間 ☐ 特別活動 ☐ 自立活動 ☒ 各教科等を合わせた指導 ☐ その他の教科 ☐ その他()
	単元・題材名	プライベートゾーンって何だろう
	授業の目標	・身体には自分だけの大事な部分「プライベートゾーン」があることがわかる ・相手と接する適切な距離感がわかる
	観点別学習状況の評価の観点 (教科の特性により設定した観点がある場合は「その他」を選択し記載。)	☒ 「知識・理解」 ☐ 「技能」 ☒ 「思考・判断・表現」 ☐ 「関心・意欲・態度」 ☐ その他()
	自立活動の要素	☒ 健康の保持 ☐ 心理的な安定 ☒ 人間関係の形成 ☒ 環境の把握 ☐ 身体の動き ☐ コミュニケーション
学習(集団)の実態	学部・学年・人数	☐ 通常の学級 ☐ 通級による指導 ☐ 特別支援学級 ☒ 特別支援学校 ☐ 就学前 ☒ 小学生 ☐ 中学生 ☐ 高校生以降 ☐ 特定されない 小5・6年男子
	対象の障害	☐ 視覚障害 ☐ 聴覚障害 ☒ 知的障害 ☐ 肢体不自由 ☐ 病弱・身体虚弱 ☐ 言語障害 ☐ 自閉症 ☐ 情緒障害 ☐ LD(学習障害) ☐ ADHD(注意欠陥/多動性障害) ☐ その他
子どもの実態	子どもの課題(特性・ニーズ)	☐ 聞く ☐ 読む ☐ 見る ☐ 話す ☐ 書く ☐ 運動と姿勢 ☐ 計算する ☐ 推論する ☒ 日常生活活動 ☒ 社会性・コミュニケーション ☐ 不注意 ☒ 多動性・衝動性 ☒ 覚える・理解する ☐ 時間的・空間的・人的交流の制約 ☐ その他 ・男女の身体的違いについての学習が不十分 ・自分のプライベートゾーンを他人に見せることへの抵抗感が薄い ・他人の身体に触れることへの意識が低い
ICT活用について	使用した支援機器・教材の名称 (使用した支援機器・教材の名称を記載。なお、特定の製品に特化した実践の場合は製品名を記載。)	・iPad…パワーポイント(iPad版) ・PC…パワーポイント(スライド作成)、iTunes
	活用のねらい(概要)	A コミュニケーション支援(☐ A1意思伝達支援 ☐ A2遠隔コミュニケーション支援) B 活動支援(☐ B1情報入手支援 ☐ B2機器操作支援 ☐ B3時間支援) C 学習支援(☐ C1教科学習支援 ☒ C2認知発達支援 ☐ C3社会生活支援) 自他のプライベートゾーンについて正しく理解し、人と接する時の適切な距離感を身につけさせたい
	活用方法	<準備段階> ①PCのパワーポイントでスライドを作成(プライベートゾーンという言葉の意味や、身体の各部分に触れたときに効果音とともに「○」「△」「×」の判定が表示されるようにスライドを作り込む)。 ②PCのiTunesからiPad上のアプリ「パワーポイント」に作成したスライドのファイルを送る。 iPadのパワーポイントでスライドショーを実行し、子供たちひとり一人に、身体のイラストの各部位に触れてもらい、判定を見て学習する。 ※使用するイラスト、写真、音声等は著作権や二次加工の可否など、利用に関して十分留意する
効果・評価	ICTを活用した授業での子どもの様子や変容および授業の評価	・男女別に行われる、性の学習の際に使用した。 ・画面のタッチ操作によって、相手の身体部位への接触がイメージしやすく、それが「○」「×」判定されることに驚きや関心を示し、意欲的に学習に取り組むことができた。
資料	図・写真・表等 (生徒の写真は個人情報公開の確認を取っているものとする。)	プライベートゾーンは じぶんだけのばしょ ほかのひとにさわらせない みずぎでかくすばしょ みせない ほかのひとのまえでさわらない